

追浜の新しいお土産品開発に向けて ～（仮）「おっぱま 雷 まちおこし」の試食会～

「横須賀おっぱまワイン」や「ワインケーキ」は追浜の名物として定着していますが、今後追浜のさまざまな地域資源を活かして多くの人を呼び込もうとする時、新しい追浜土産が欲しいという話がでました。そこで2016年度横須賀市NPO補助金をえて、お土産品の開発を試みるようになりました。アクションおっぱまの役員・会員のほか、飲食店関係者、主婦、コンサルタントなど多彩メンバーで検討会が発足。（仮）「おっぱま 雷 まちおこし」という新しい「おこし」を作ってみるようになりました。追浜に因むものとして雷神社が浮かび、雷ジンジャーは既にありますが、子どもも楽しめるもの、軽くて持ち運びに便利なものということから「おこし」が浮上しました。なお、これには小泉進次郎議員の後押しもあります。

試作品は、浅草常磐堂での「おこし製造体験」で方法をまなび、追浜コミュニティセンター調理室で製作。「おこし」には追浜ゆかりの食品を混ぜて特色を出そうと、あんず、ワカメ、ショウガなど加えて合計10種類がならびました。2回の試食会では、「おこし」そのものはお土産

品として好評で、味、ネーミング、包装等実現に向けてさまざまな意見が寄せられました。

因みに1位は「味付めかぶ 濃い目でお茶漬け用」2位「柿の種カレー味」3位「味付めかぶ・黒ごま・ショウガ」でした。杏は水分を残さないことが「おこし」づくりの鍵のようです。

商品化まではなかなか大変ですが、好評だったことからぜひ実現させたいと思っています。

（NPO 法人アクションおっぱま理事長 昌子住江）

試食会の模様▶



◀試作品製作



ワカメ収穫祭 - 深浦漁港 -

春はまだ遠い2月19日（土）深浦漁港で第2回ワカメ収穫祭が開催されました。冷たい風が吹いていましたが晴天で大勢の人が、10時の開始と同時に詰かけて焼き物や海産物の売り場に我先に並びました。中でも特に人気のワカメとメカブの売り場には長蛇の列ができ、水槽のある建物に人があふれていました。大きな籠から取り出される褐色のワカメやメカブは新鮮で輝いていて、「早く茹でて食べたい」と思わせます。1キロ、2キロと飛ぶように売れてゆきました。干場では茹

でたワカメを漁師のおかみさんたちが丁寧に広げながら、きれいに並べて行きます。

近くの浦郷公園では河津桜が満開でワカメを買った袋を下げて花見を楽しみながら帰る人たちもいました。（記 K）



盛況だった第13回おっぱまワイン寄席



今年13回目を迎えたおっぱまワイン寄席は春まだ浅い3月10日関東学院の学生ホールで行われました。会場が都合により慣れ親しんだ追浜外での開催となりお客さんの出足が心配でしたがなんと150席分のチケットが1週間前で完売となりその後もチケットないかの問い合わせ多数という嬉しい誤算?になりました。柳家喬太郎師匠は今や押しも押されもせぬ売れっ

子落語家として定評ありおりしも数日前にも某TVで今最もチケットが手に入らない落語家と紹介されたばかりで正にプラチナチケットの感がありました。



13年前よこすかおっぱまワインがよちよち歩きで始まった頃ワイナリーの二階座敷で古ぼけた机の上にお寺で借りた座布団敷いて師匠の話をわずか30人で聞いた時を思うと隔世の感があり、追浜の町がいつもにぎわい元気な街であってほしいと願ってはじめてこの催しが今や町の定例イベントとしてすっかり定着したことに感慨を覚えます。これからも回を重ねてより実りある催しにしてゆきたいものだと思います。

(記 S)



「だれでもが安心して暮らせるまち」は、ご家庭の安全から

ルネ追浜の親子サロンにアクション追浜がサポート参加しています。若いお母さんと小さな子どもさん方と一緒に歌や遊びの中に一緒に入れてもらい時間を過ごします。2月16日の親子サロンでは、新聞記事などに取り上げられた小さな子どもの事故予防についての情報をアクション追浜のメンバーからお伝えしたところ、参加されたお母さん方から、子どもの事故についてどのように防げば良いかの情報がある

とたすかりますとご意見がありました。そこで、活用できる安全情報「子ども安全メール from 消費者庁」をご紹介します。

アクション追浜の目指す「だれでもが安心して暮らせるまち」は、子どもさんが健やかに育つ家庭の安全から始まります。まず、ご家庭で出来ることから始めてみませんか。

(NPO 法人アクションおっぱま正会員 綾部豊樹)

～ 子どもの安全についての情報のご紹介 ～

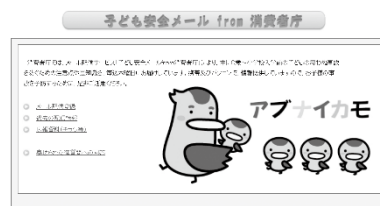
子ども安全メール from 消費者庁

< <http://www.caa.go.jp/kodomo/mail/index.php> > ← 登録はここから！

毎週木曜日に0歳から小学校入学前の子どもの安全情報が配信されます。

子どもの安全情報をケイタイ・スマホに携帯し安心！

* 最近の事例；玩具飲み込みによる窒息、洗剤ボールの誤飲、電気ケトルの転倒によるやけど、歯磨き中の喉突き、お風呂あそびで溺れ など)





元気な町には 祭りがある

祭りが盛んな町は活力があるといわれます。古くからの祭りの原点は神事であることが多いようですが、現代の祭りは神が主役というより、執行する人のみならず、見る人を楽しませる狙いが強くなりました。祭りがイベント化・ショー化してきたのです。必然的に魅力ある祭りには見物客も多く集まります。この図式が冒頭の“祭りが盛んな町は活力がある”といわれる所以です。

こんな場面に遭遇したことがあります。東日本大震災の被災地・岩手県釜石市の仮設住宅をボランティアとして訪ねたときのこと。災害から3年、まだ明日の希望も見通せない時期にもかかわらず、秋祭り開催の寄付金を集めている若い衆に出会いました。「規模は縮小しても伝統の祭りは住民を元気づけてくれますからね」という言葉に、祭りのとてつもなく強い力を改めて感じたものです。

ショー化したとはいえ、祭りには日本の伝統的な心を感じ、ふるさとに思いをはせる本来

のよさも健在です。しかし、近年ややもすると伝統の祭りが続けられない地域もあると聞きます。人口減少も一因ですが、社会全体に祭りに対する本質的理解が希薄化していることにも原因があると思います。祭りの意義を理解し伝承し、あるいは新しい祭りを創造してくれる人材を育てる必要があります。

私は湘南鷹取の住民です。町ができて48年のまだまだ歴史の浅い町ですが、御輿やお囃子を導入するなど、みんなで独自の祭りを創造し、いまや子どもたちの“ふるさと”らしきものができつつあると感じています。

また、私は地元の鷹取中学校のご理解をいただいて、総合学習の時間に「日本の祭り」という授業を担当して15年になります。中学生時代に祭りの本当の意味や楽しさを理解し、祭り好きのいい若い衆になった彼らが、やがて地域で祭りを通じて、住民の団結力を強め、町を活性化させてくれることを期待しているのです。

● 追浜空き家散歩に同行して

「追浜空き家プロジェクト」で、すでに「あんず通信」でも紹介されている関東学院大学の兼子朋也先生と、空き家リノベーションをまちづくりに位置付ける（株）エンジョイワークス（鎌倉市 不動産会社…一級建築士事務所）が企画する「追浜空き家散歩」（2017年3月4日）に同行しました。当日集まったのは約30名、空き家の活用に関心を持つ人たちで、比較的若い人が多かったことが印象に残りました。当日の目玉は「100万円住宅」。大家さんが土地付き100万円で販売するという空き家で、追浜1丁目の谷戸上、階段を80段のぼったところにある平屋住宅です。ただ、その住宅だけを見るというのではなく、追浜を知って欲しいということから、追浜南

町2丁目のすでに改修成った住宅に集合、商店街や路地を通して対象物件を見たあと、観音寺の坂を上って海を見たりトンネルを抜けたりと、まち歩きを楽しんだ3時間でした。追浜初めての人も、追浜といえば工場地帯だと思っていた人も、まちの持つ多様な表情は新鮮に映ったようです。対象物件以外の空き家に興味を持った人もおり、こうした試みはこれからも続けて欲しいと思いました。



（記 S）

● 定年後の人生

中学・高校時代は徒歩通学。大学、社会人生活は東京までの電車通学、通勤。住まいは追浜、二回ばかりの引っ越しを経験しましたが、それも300m圏内の追浜。生活の場が東京にあった時代は、仲間や同僚から何故もっと東京の近くに引っ越さないのかと散々言われはしたが、「老後の生活を考えると、今の住まいより良いところは無い」と豪語し、2時間を超す電車通学、通勤をしていました。

山を背負い、海が目の前にあり、気候にも恵まれた追浜での定年生活の第一歩は情報集め。市役所、行政センターの情報をもとに精査し、地域の歴史を知り、その知識を地元の人達と共有できればとくおっぱまはっけん倶楽部>に入りました。地元を動き回

ると今迄見えてなかった新たな発見も色々あり、また、それまでの交流していた仲間とは違った色合いの人達とも知り合い、活動や飲み会を通して新たな刺激を受け楽しい日々を送っています。

中学、高校、大学の友人や程よい距離にある元の会社の仲間たちとの山歩き、旅行や酒を通じた様々な活動も追浜の地での生活があつてのことと思います。古希を迎え、酒の量も減り、体力の衰えを実感する日々ですが、精神年齢を若く、これからものんびり、ゆっくり、好きなことだけをして良き友人、仲間と共にこれからも楽しい日々を送りたいと思っています。

（おっぱまはっけん倶楽部 片岡 博）

● おっぱまはっけん倶楽部 2017年第三海堡遺構ガイド計画

第三海堡遺構一般公開で当NPO法人と一緒に活動しているおっぱまはっけん倶楽部の今年の活動予定です。

- 5月11日 野口 孝俊氏
国土交通省関東地方整備局
港湾空航部事業継続統括官
(元東京湾口航路事務所副所長)
による第三海堡遺構勉強会
- 3月20日・7月17日・11月23日
アイクルフェアで一般公開
- 10月22日 Yフェスタでの来場者ガイド
- 一般公開日 毎月第一日曜日
その他団体来場者のためのガイド

追浜あんず通信 13号 2017年6月発行

発行 特定非営利活動法人アクションおっぱま
発行人 昌子住江
編集 NPO法人アクションおっぱま編集委員会

